

## 創立40周年特別企画

## 「教育最前線」を振り返る

創刊以来、「教育子午線」の巻頭を飾ってきた特集コーナー「教育最前線」。その時々の教育分野にまつわる旬な話題や大学の動向などの情報を学内外へ発信してきました。今回は創立40周年特別企画として、創刊当時の学長である中洩正堯名誉教授と福田学長による対談を開催。羽田潤准教授が進行役となり、兵教大の歩みと重ねながら歴代テーマを振り返っていただきました。



はだ じゅん  
**羽田 潤**

言語系教育コース准教授  
大学広報室 広報誌等担当部門責任者

なか すまさたか  
**中洩正堯**

元学長・名誉教授

昭和13(1938)年現北九州市生まれ。広島大学を卒業後、広島県内の公立中学・高校、鳥取大学を経て、56年から兵庫教育大学で教授、評議員、学校教育研究センター長、大学院連合学校教育学研究所長などを歴任。平成12(2000)年12月から4年間学長を務めた後、20年3月に任期満了退職。現在も国語教育探究の会、国語論究の会など、研究・実践に取り組んでいる。

ふくだ みつひろ  
**福田光完**

学長

「教育子午線」のバックナンバーはホームページで見ることができます



は、一つの実践学のありようかなと思います。

**福田** 実践の具体的な例は、全コースに長期の実習を課している点です。当時、兵教大にとっては大きな改革で、実務経験の豊かな教員も採用しました。教科の壁を超え、いろいろな角度からの見方ができる教員が加わったので、学生の中には職場での担当とは別の教科を専門とする教員が面倒を見ることもありました。違う教科から見た中学校の在り方や、授業のレベルアップの方法などを知ることができ、学生からの評判は良いですね。教職大学院では、従来のように修士論文の指導教員が1人で担当するのではなく、1人の学生に複数の教員が関わり指導する中で自己を高めてもらいます。本学ではこれまでなかったことで、総合学習系コースのエッセンスもうまく取り入れられたと思います。

**中刈** ただ、私は教科教育の専門なので、教職大学院では従来の講座やゼミを中心とした世界が希薄になっている気がします。

**福田** なかなか難しい問題ですね。決して専門性がなくなるという制度ではなく、本人に学ぶ意欲が多面的であれば達成できる環境になっています。例えば、教職大学

院の全コースで必修としている**共通基礎科目**はいろいろなコースの

学生と一緒に授業を受けるので、違う立場の人の意見もたくさん聞くことができます。それが学校現場の多様な問題を解決するに当たって良い方向に働けばという思いもあります。もちろん、教科を深めたい学生は専門分野もきちんと学びます。ただ、その場合も実践を通して学校で教えることに主眼を置き、どうすれば自分が学んだものを学校現場で生かせるかを思考することを通じて学びをより深めてもらう、というイメージを描いています。

**羽田** 来年度から5教科が教職大学院化する予定で、現在、カリキュラムを整備している最中です。

**中刈** かつての大学院にあった良い面をどこまで取り入れていくか。そういう工夫が要るのではないかと思います。

### 新学習指導要領から教育の在り方を考える

**羽田** 45号で取り上げている、今回の学習指導要領の改定については、どうお考えですか。

**中刈** 今回、目に付いたのは「深い学び」と「学校教育におけるカリキュラムマネジメントの確立」「教科横断的な学習の充実」という

キーワードです。しかし、これらは総合学習以来の課題のような気がします。いい意味で引き継がれていると言えるし、依然として実践の難しい問題として残っているとも言えます。

**福田** 新学習指導要領は、かつてのゆとり教育から脱却し、それな



りません。しかし、小学校では英語など新しい課題がどんどん入ってくる一方、総合的な学習の時間も残っている。新しいことを組み込む前にきちんと取捨選択し、学ぶべきものを段階別に考えていかなければいけません。特に、国語は非常に心配な状況です。

**羽田** 言葉の能力は全ての基本と言えますからね。

**福田** 今、リーディングスキルが問題になっています。文章が理解できなければ問題の意味が分からず、理科も社会も習得できません。その意味で、国語は大切です。

**羽田** 最後に、「教育子午線」は今後どう在るべきか、意見を聞かせてください。

**中刈** 外部の人が読む限り、大学が行っている各事業がどういう内容で何を達成してきたのかなどが分かりません。簡単ないいので、それらを知ることができるものがあればと期待します。

**福田** 今回、改めて1号から目を通して感じたのは、続けていくことが大事だということです。本学は設立構想の地点が大切なので、「教育子午線」ではそれらを受け継いでいるという姿勢を見せなければと思います。

**羽田** 本日はありがとうございました。

46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29
30年		29年			28年			27年			26年			25年		24年	
2月	10月	6月	2月	10月	6月	2月	10月	6月	2月	10月	6月	2月	10月	6月	2月	10月	6月
外国語教育の充実に向けて	新しい学習指導要領子どもの教育はどう変わる？	兵教大の研修事業現代のニーズを捉えた研修	兵教大の女子力男女が共に学び、働くために	理論と実践の融合 兵教大の教育研究	教職大学院の新たな取り組み「新設コースがスタート」	兵教大のFD活動「授業は誰のものかを考える」	発達障害支援&インクルーシブ教育	就学前教育	教育行政の運営力に期待できる教育長の養成	薬物乱用防止のために教育は何ができるか	子どもの体力	現代いじめ事情	開学35周年特集	現状と課題から見る道徳教育の重要性	学校における食育のポイントと課題	これからの学校教育に求められる「言語活動の充実」	教職大学院での学び

〔解説〕

学報

学内の管理運営の円滑化などを目的に、昭和55(1980)年10月から発行されていた月刊誌。平成28年4月の415号を最後に廃刊となりました。



学園だより

昭和55(1980)年7月から発行されていた学内向け広報誌。平成10(1998)年1月、国立大学等優秀広報紙表彰で優秀賞を受賞。17年3月の77号を最後に廃刊となり、「教育子午線」に引き継がれました。



学校教育の内容と併せてももっとしっかり検討していれば、マネジメント力を養成するコースになったのかなと思います。加えて、各教科との絡みももっと進められてもよかつたかなという気もしますが、難しいところですよ。

**福田** 学習指導要領で教科の枠組みが決められているので、教科の壁は打ち破れないところがあります。例えば、家庭のごみを分別し集積所を持って行くまでが家庭科で、それ以降の自治体によるごみ処理は社会科の内容になります。中学生になると教科の縦割りがより顕著になるので、総合的な学習の時間はそれらを切り開く存在として期待していました。ただ、残念ながら総合的な学習の時間に対する考え方がそれぞれ違い、一つにまとまりませんでした。米作りをテーマに1年間取り組ん

だ学校があつたりと、非常にいい教材が残っているにもかかわらず一般化しなかつたことは残念です。

**国立大学から大学法人へ未来に向けたプランを提示**

**羽田** 6号では兵教大の法人化を取り上げています。

**福田** 法人化当時、学長として何が一番大変でしたか。

**中刈** われわれ自身も理解できないところがある中で、周りの人が分かるように規則や制度をつくり上げていくのは大変でした。

**福田** 学則も文書も全て国立大時代のもので法人法に対応させた形で変える必要があり、すごい作業量だったと思います。

**中刈** もう無我夢中でした。当時、私は学長として「21世紀新構想大学プラン」を作成しました。かつて発行していた「学報」や「学園

### 専門職学位課程の特色ある科目

**実習科目**

学校や教育行政現場等で総合的に体験・考察するため、各専攻・コースごとに実習科目を開設。コースごとに10~14単位を必修とし、実践的指導力等の習得を目指しています。

**共通基礎科目**

学校教育で中核的・指導的役割を果たす教員となるために必要な基礎的領域に基づいた授業科目「特色あるカリキュラムづくりの理論と実践」「人間の成長を促す教育の理論と実践」などを開設。コースごとに12~18単位を必修としています。

だより」に、歴代の学長が退官する時に本学の取り組みや課題をまとめておられたので、それらを基に構想を練りました。そして、完成したプランを参考に、濱名佐藤両副学長に中期目標や中期計画を立ててもらいました。

**変革をもたらした教職大学院の設置**

**羽田** 10号のテーマは「より高度な専門性を持った教員の育成をめざして」。翌年の教職大学院の正式な開設を控え、1年先行して取り組みが始まったタイミングでした。

**福田** 本学が1年先行して認められ、翌平成20(2008)年の教職大学院への移行時には



ぼそのままの形で認められたことは、全国的に大きなインパクトがあつたと思います。

**中刈** 10号を改めて読むと、子どもたちの学ぶ意欲や規範意識、自立心の低下、いじめや不登校の深刻化など、複雑多様化している課題に対応できる実践的能力のある人員を整備する、というのが教職大学院の設立趣旨です。日本の教育界の負の側面に対応する大学改革という感じですね。教育現場の問題に対応するという点で

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15
24年		23年			22年			21年			20年		
2月	10月	6月	2月	10月	6月	2月	10月	6月	2月	10月	6月	2月	10月
小学校英語活動の指導者と研究者の育成	「教員養成スタンダード」を策定し新任教員に必要な資質能力を育む教員養成スタンダードに基づく4年間の学習プログラム	新学習指導要領がスタート 知識や技能の習得とともに思考力・判断力・表現力の育成を重視 新学習指導要領でココが変わる	教職大学院のこれまでの成果とこれからの可能性	特別支援教育行政の現状と課題	児童生徒の暴力行為にどう向き合うか	特別企画「教材文化資料館」へようこそ	小学校の「外国語活動」が必修に 中学校、高校の英語授業にも変化が 担当教員の外国語教委会に対する期待と不安	「教員免許更新制」がスタート 10年ごとに定期講習で 資質・能力の向上を	なぜ、子どもたちの理数系学力は低下したのか	今こそ情動知能の育成が必要	働きながら大学院に通い 教育実践力を身に付ける 夜間クラスの授業を行う 「神戸サテライト」を紹介	新しい学習指導要領の理念と課題 各教科領域の担当教員が 新しい学習指導要領を分析	これからの学校づくりを担う学校管理職と教育行政専門職の養成をめざして



「年に創刊されたことは本学にとつて象徴的で、「外に発信していく」という姿勢を明らかに示した点ですごく意義があると思います。」

**中列** もう一つの背景として、兵教大は「教員

**羽田** 兵教大初の学外向け広報誌「教育子午線」の創刊に至った背景を教えてください。

**中列** 当時、大学の教育行政改革の機運が高まりつつありました。例えば、定員確保や教員就職率、地域貢献などの問題があり、教育学部の再編統合という話も持ち上がっていました。それらに対し、大学として、改革に向かっている、姿勢を表明する意図がありました。

**羽田** 冊子のタイトルは先生がお考えになったと創刊号の編集後記にあります。

**中列** 加東キャンパスは日本の標準時を表す子午線が通る所にあるので、「教育の標準や指標となる大学を目指すんだ」という意気込みで名付けました。

**福田** 初めて誌面を見た時に、すごくインパクトがあったのを覚えています。国立大学がこのようにきれいでおしゃれな広報誌を出すんだ、と。しかも、21世紀の始まりの

「に、学校教育実践学専攻と教科教育実践学専攻をうたい、学位は学校教育学としました。実践との呼称ということで、学位に学校を冠したのは全国の大学で最初です。以来、本学の存立意義は実践学にあるんだという考えに基づき、改革が進んでいると思います。」

**福田** そうですね。70年代初めに新構想が議論され、その中で兵教大の基本構想が示されました。そして、現職教員の高度の研修・研鑽の機会を確保する観点から昭和53(1978)年に開学したという経緯があり、それが現在までずっと底流にあります。兵教大の教員自身も「もつと大学の在り方について考えていかなければ」という雰囲気になったのは博士課程が誕生する90年代後半からだったと思います。

**中列** 90年代に大学審議会や中央教育審議会が大学の個性化・機能強化という話が活発化し、各大学がそれぞれのミッションを果たしているのかという議論もありました。

**中列** そうした中、兵教大は平成8(1996)年に他大学との差別化を図る旗印として、「実践学」を掲げました。本学が中心となつて連合大学院を設立した時

に、学校教育実践学専攻と教科教育実践学専攻をうたい、学位は学校教育学としました。実践との呼称ということで、学位に学校を冠したのは全国の大学で最初です。以来、本学の存立意義は実践学にあるんだという考えに基づき、改革が進んでいると思います。

「に総合学習系コースを設置しました。教育行政からの動きに対して、本学が改革の動きを示した最初の例だと思えます。実践学という「実践」は、アカデミックの世界では理論や研究と対になる概念である一方、教育行政が打ち出すものに対して大学としてどう応えていくか、という意味合いが含まれるようになり、2方向での捉え方ができました。教育行政にフレキシブルに対応できる姿勢を示したことが、後に次々行われた改革につながりました。」

**福田** そうですね。

**中列** なお、総合学習系コースの成果や課題については、生かしたいものですね。今回の学習指導要領の改定で新しくカリキュラムマネジメントという言葉が出てきましたが、総合的な学習の時間はまさにカリキュラムを作っていく力がなければできない教科です。当時、

2号では新学習指導要領を取り上げています。いわゆるゆとり教育の始まりで、記事では批判的な言葉も登場します。

**中列** 完全週5日制になったことと、総合的な学習の時間が始まったことをうたっていますね。この改定に関連して、兵教大では平成12(2000)年に修士課程

に、学校教育実践学専攻と教科教育実践学専攻をうたい、学位は学校教育学としました。実践との呼称ということで、学位に学校を冠したのは全国の大学で最初です。以来、本学の存立意義は実践学にあるんだという考えに基づき、改革が進んでいると思います。

〔解説〕

総合学習系コース

平成12(2000)年度から18年度まで、修士課程教科・領域教育専攻内に開設されていたコースで、情報、環境、異文化理解などのテーマを中心に、教科横断的な教育活動に必要な指導法を理論と実践の両面から研究することを目的としていました。

No.	発行年月	教育最前線テーマ
1	13年 12月	創刊記念インタビュー 中列正塾学長に聞く
2	14年 6月	新しい学習指導要領が今年度からスタート 「生きる力」の育成をめざし「総合的な学習の時間」が創設
3	12月	子どもの成長と心のケア
4	6月	求められる「学校と地域の連携」
5	15年 12月	なぜ学校教育に芸術教育が必要なのか
6	16年 7月	特別企画 「国立大学法人としての兵庫教育大学」
7	1月	教員の指導力向上をめざして
8	17年 6月	学力論争のゆくえ 日本の子どもは学力は本当に低下したのか
9	10月	「確かな学力」の育成に向けて 教師の指導力に何が必要か
10	2月	より高度な専門性を持った 教員の育成をめざして 平成19年4月「教職大学院」の設置に向けて
11	6月	教職大学院に先行して 実践重視の新専攻を設置予定
12	10月	最近の青少年犯罪の背景に見る 「心の教育」の必要性
13	2月	教育現場の課題解決をめざし 小学校教員養成の在り方を考える
14	19年 6月	学校現場の諸問題に対応し授業実践 リーダーとなる教員の養成をめざして